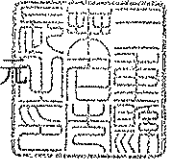




国土交通省道路局長 様

土第 183 号
平成 19 年 5 月 8 日

桑名市長 水谷 元



中期的な計画の作成にあたっての意見（回答）

平成 19 年 4 月 2 日付の国道企 114 号で依頼のありました中期的な計画にあたっての意見を下記のとおり回答いたします。

記

国道 1 号の伊勢大橋は旧長島町と連絡する生活道路で、慢性的な渋滞が非常に問題になっています。さらに桑名市は東海地震の地震防災対策強化地域、東南海・南海地震の地震防災対策推進地域に指定されており、大規模地震の切迫性がある地域であり、伊勢大橋の架け替えが地域の悲願となっています。

桑名市は企業立地として、多度方面に大規模開発化のうちを産業誘導ゾーンと位置づけ、富士通に代表される多度工業団地、NTN に代表される多度第 2 工業団地、民間開発による工業団地があります。今後も新たな大規模開発が予想される地区として約 63ha の工業団地計画があり、この地区へのアクセス道路と隣接する 258 号の全線 4 車線化が必要となっています。

また、観光においては今回の合併で 700 万人を超える観光客が訪れる県下でも有数の観光都市となっています。観光も重要な産業の一つと捉え、観光・産業の地域経済の強化・地域振興のために第二名神・東海環状の高速道路整備が必要となっています。

このことから、重点化を進める上で特に優先度の高い政策は安全・安心の確保、地域の自立と競争力強化を望みます。

その他として、桑名市は平成 18 年度に道路整備についての市民意識調査を行いました。その結果、高齢者・通学者が安全に歩ける道路、渋滞している地点を解消する道路の整備が強く求められていました。

また、桑名市は名古屋市の近郊で急速に都市化が進んだことがあって、まだまだインフラの整備が追いついておらず、地域内の道路事情は劣悪でありますとともに、高度経済成長期に急速に整備した道路施設の多くが更新時期を迎え、

順次更新を行っていく必要があります、今後多額の維持修繕費が必要となります。このようなことから、地方道路整備臨時交付金・まちづくり交付金事業など、補助対象の拡大や新規制度の拡充を望みます。

最後に、遅れている地方の道路整備や維持管理には安定的な財源の確保が必要であり、国においては、道路財源の地方への配分割合を高めることを望みます。